

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	「アスレの森」を残す会「あすのこ」
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	金沢 区 六浦東3 丁目
提案名 (25字以内)	あつまれ「アスレの森」
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>瀬ヶ崎小学校の裏山にある「アスレの森」の前に、休み時間に森での遊びを見守り、地域住民など多世代で集まり休憩や拠点となる広場。「あすのこ広場」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>メインウッドデッキ</b> 子ども達から「裸足で遊べるウッドデッキが欲しい」との要望。また、授業での発表をはじめとした各地域団体による活動発表の場としても活用。</li> <li>○ <b>ミニウッドデッキ</b> 地域住民によるDIYで製作。それぞれ快適な距離感で点在するミニウッドデッキは、子どもから大人まで森の緑を感じながら落ち着く居場所となる。</li> <li>○ <b>回遊の小道とスロープとシンボルツリー</b> 森の風を感じながら散歩できる草地のくねくね小道。そして「あすのこ広場」と子ども達や地域の人々を見守るシンボルツリー「プラタナス」。</li> <li>○ <b>アプローチ</b> 飛び石状に並べられた枕木は自然豊かな「アスレの森」に誘う！</li> <li>○ <b>落石防止ウォール</b> 斜面側における万が一の落石の危険性を考え、遊び心溢れた（寄り掛かったり、かくれんぼしたり）デザインのRC壁の設置。</li> </ul>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>平日は休み時間の児童利用と見守り、まち保育としての利用</b> 児童の休み時間での遊びの見守り（週1回ほど）。また、近隣幼稚園や保育園のまち保育としての活用。（まち保育による園児管理は幼保職員）</li> <li>○ <b>土日に学校開放時間のイベントや交流の場として</b> 親子参加イベントやサークル活動、読み聞かせ、音楽会、ヨガ・体操教室や工芸教室、森の散策など、地域が集い、のんびり過ごせる憩いの場として活用。各町内会、婦人会、子ども会の活用。近隣大学と協同でのワークショップ開催。地元スポーツ団体の観戦や応援。（イベント参加者の安全管理は主催者）</li> <li>○ <b>森の安全教室・防災教室の企画</b> 消防団やネイチャーガイドと協力して体験を通じた命の大切さや安全を学ぶ。</li> <li>○ <b>気軽に立ち寄り、休憩できる広場として</b> 何もしなくても、ちょっとお喋りする場として…気軽に集える居場所づくり。</li> <li>○ <b>広場使用の際の安全な使い方や注意の喚起</b></li> </ul>
提案の背景	○ 脈々と受け継がれてきた「アスレの森」の活動

<p>(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>「アスレの森」は60年前、PTAや地域の協力で創立10周年(S39年)にその地形を活かした遊歩道のある「自然園」として誕生した。創立30周年頃にはPTAや地域の熱い要望のもと、教育委員会と協力しアスレチック「わんぱくランド」と形を変えた。H19年、老朽化に伴うアスレチック撤去の際には傾斜地である森全体をコンクリートで覆う計画も浮上。しかし、豊かな森を子ども達に残すために『あすのこ』を保護者有志で発足。保護者と地域、学校が横浜市と粘り強く交渉を重ね「アスレの森」として残すことが決定した。H21年に遊歩道を整備し保護者と地域が一体になって森の整備にも取り組み、永く親しまれている。</p> <p>◆ <b>学校での休み時間の利用を促進</b> 現在、大人の見守りの必要性から「子ども達が行きたいのに行けない」という問題が生じている。「アスレの森」の入口に大人の見守り拠点ができれば、子ども達の森での活動も今まで以上に活発になる。</p> <p>◆ <b>発表のステージや休憩場所の確保</b> 計画地では土日の学校開放時に延べ25回のワークショップが行われている。しかし、発表のステージや休憩場所の確保が課題である。その課題を解消するために、ウッドデッキがあれば発表のステージや休憩場所として活用が可能。また、グラウンドでの試合観戦などにも使用できるため活用の幅は広がる。</p> <p>◆ <b>地域の活性化</b> 地域住民の高齢化が大きな課題である。コロナ後、交流が制限される中で集まるきっかけや機会が減り、地域の担い手不足も深刻化している。特に若い人材の交流も少なくなっているため、イベントや町内の集まりなどに利用されることで地域活性化の一歩としたい。</p> <p>◆ <b>第1次提案書からの変更点</b> ◇プラン全体像 地域全体がより活用でき、様々な人が「広場で出会い、森とともに育つ」ことができる交流施設として修正。 ◇削除及び追加点 ・急傾斜地の安全性を考慮しグラウンド側にメインデッキはずらして設置。 ・セキュリティ面の検討の結果、入校用の専用扉と通路については削除。 ・東屋は法規の制約により取りやめ、ウッドデッキや草地広場の範囲の拡張。 ・「あすのこ広場」完成後は、陽射し対策のシェード設置等も検討している。</p>
<p>整備プロセス(スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>○ <b>ミニウッドデッキ製作と広場の整地をみんなの手で!</b> 毎年「アスレの森」の手入れには地域から100名近くの協力を得られているため、施工時の協力体制も整っており費用は圧縮可能。子ども達、地域住民、近隣大学のメンバーによるワークショップにてミニウッドデッキ製作を計画。</p> <p>○ <b>完成後の整備も地域みんなです!</b> 完成後の整備についても、連合町内会長、各町内会長、学校地域コーディネーター、主任児童委員、学校長、PTA会長などを中心に組織を構成し計画的に行う。常に情報を発信し、仲間を増やしながら活動する予定。学校開放で利用している地元スポーツ団体にも整備の協力を呼びかけたい。</p> <p>○ <b>設計・設備について</b> 活動メンバーに大学で教鞭をとる建築の専門家がいる。整備を進める上で随時助言・支援を受けることができる。</p> <p>○ <b>町内掲示板に「あすのこ広場」専用のコーナーを常設し、情報発信をしていく</b></p> <p>○ <b>不足する工事資金について</b> プレイベントを複数回開催し活動の周知とともに募金活動や、クラウドファンディングも実施。寄付の返礼品には児童が企業とともに製作した商品を用意。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法(維持管理・運営するときに連</p>	<p>○ <b>維持管理について</b> ウッドデッキと草地広場のメンテナンス。ウッドデッキは年1度再塗装する。</p> <p>○ <b>「あすのこ広場」の整備・点検</b> 例年10月に地域総出での森の手入れが定例化。「アスレの森」も含め、広場の整備及び点検も計画的に実施していく。</p>

携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	<b>○ 運営方法</b> バザーを開催した収益金や、少額ながらイベントの参加費等を集め、それを継続した整備費用に充てていこうと考えている。また、助成金や寄付金なども費用に充てていこうと考えている。
-----------------------------------	--

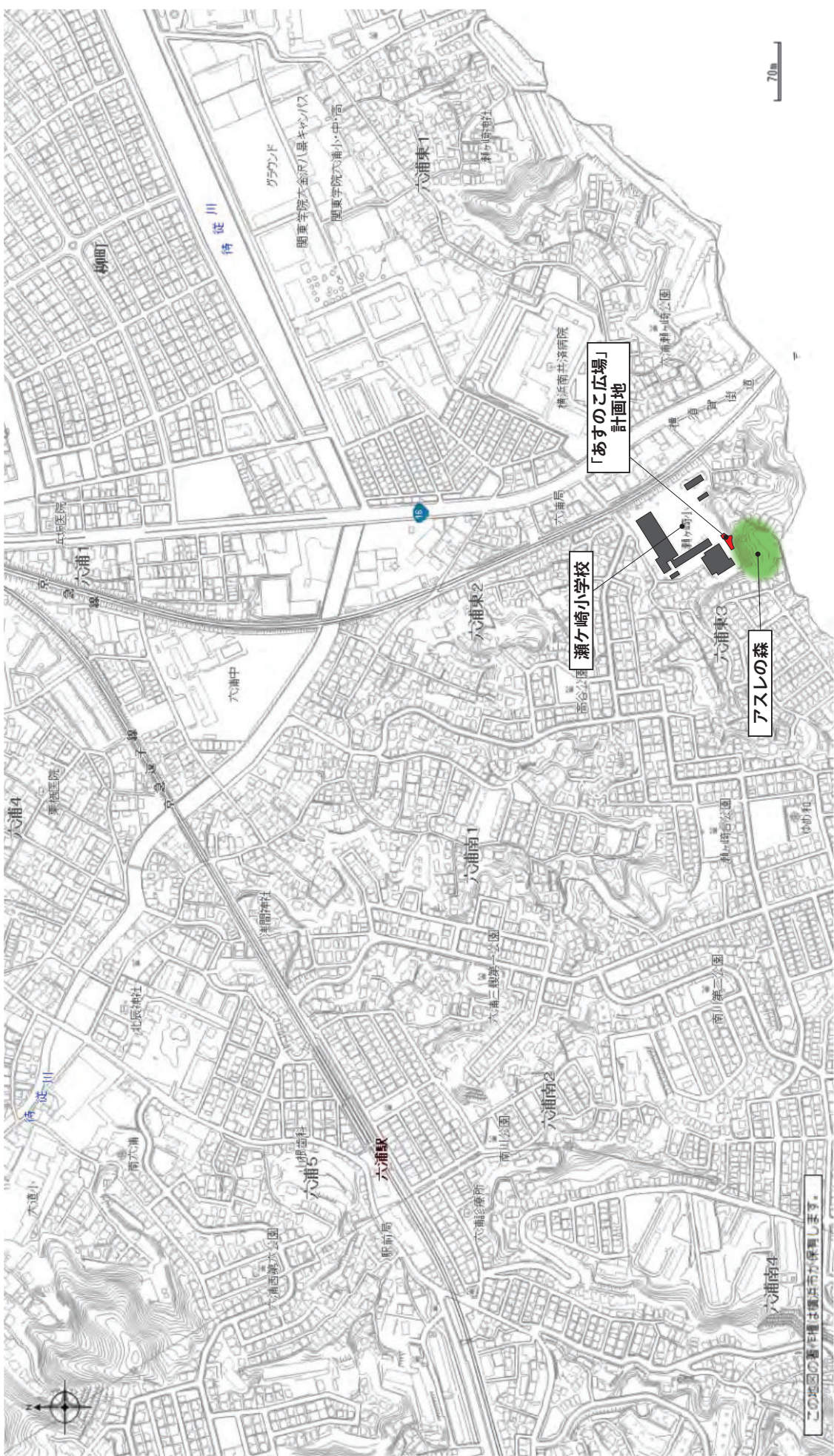
注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

1次コンテスト以降の活動内容 <small>※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</small>	<b>○ 広場の設計アイデア、運営方針などについて話し合い。（詳細は別紙）</b> <b>◆運営方針</b> 楽しみながら無理なく継続できる活動。 <b>◆広場に関するアイデア</b> ・専門家に意見を求め、安全面への考慮を図面に反映（別紙） ・ウッドデッキを活用したイベント案 ・教育活動における活用方法 ・「あすのこ広場」に関する広報 ・運営資金について
関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）	<b>○ 学校長に説明し、合意済</b> <b>○ 瀬ヶ崎小学校「アスレの森」傾斜地の安全に関する専門家との協議内容</b> 関東学院大学の地盤工学の専門家に下記の項目をご指導いただいた。 1)傾斜勾配の方向により判断し、崩壊可能性の高い傾斜地西側の斜面下は計画地から外す。2)降雨による土砂崩壊の可能性は低いと予測するが、時間雨量、累積雨量、土壌雨量指数(スネークライン)を確認し、一定の基準を超えた際は、計画地への立入禁止とする制度とする。3)雨量や地震によって傾斜地の危険が高まることを児童に教育し、自然の中の危険を判断できる教育を行う。4)最先端の研究者でも急傾斜地の地盤崩落を予測することは不可能ではあるが、上記項目を実施することで現状における最良の安全対策と言えよう。 <b>○ 近隣説明は対象住民に説明文書を直接渡し、理解を得た。</b>
その他提案について特にPRしたい点を記入してください	<b>○ 永く愛されてきた「アスレの森」！「あすのこ広場」で多様な繋がりを！</b> 開校以来、周年行事の度に様々な企画や整備を行い保護者と地域が一体となり取り組んできた。近隣住民にも永く親しまれてきた小学校にある「アスレの森」は貴重な自然を備えている(H21年環境大臣表彰受賞)。自然と触れ合う機会の減った近年、「あすのこ広場」があれば気軽に自然を感じられる。 <b>○ 「アスレの森」で育ったメンバーがいる！</b> 現在の提案メンバーには、かつてアスレックスを子どもと楽しんだ保護者に加え、当時遊んだ卒業生が大人になり保護者として参加。さらに、現中・高生も参画するなど世代の繋がりを感ぜられる。すでに出来上がっている協働の地盤に、多世代の交流があればより豊かな拠点となる。
目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）	<b>○ 子どもは地域の宝であり未来の希望</b> 「あすのこ広場」で子ども達の「生きる力」を育む。また、ここで育った子ども達がイベントなどを通して卒業後も繋がる居場所となる。さらに、地域住民も参加することで互いに顔の見える関係が構築できる。 <b>○ 「アスレの森」広場を保育の場として活用</b> 小規模保育園や幼稚園の利用で園児が豊かな自然に触れることができる。 <b>○ 梓にとらわれない居場所として</b> 引きこもりがち子どもから高齢者など、外の繋がりが持ちたくてもハードルが高く感じる人がいる。イベントを通して同じ趣味を見つけたり、ただ自然を感じたり…誰もが自由に安心して過ごせる場所を目指したい。

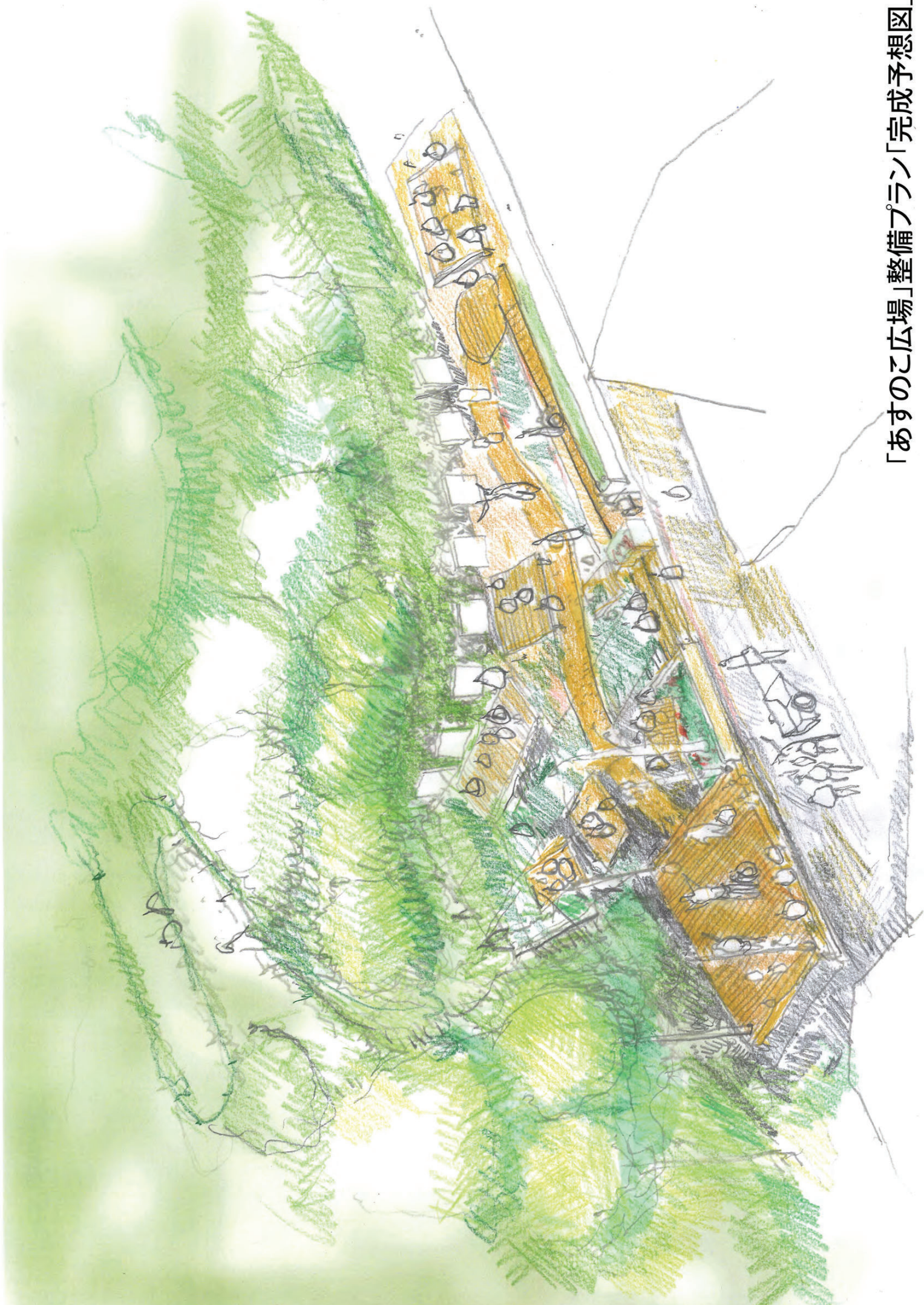
記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



「あすのこ広場」整備計画 位置図





「あすのこ広場」整備プラン「完成予想図」

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 想定整備費用内訳書

### ※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用,労力の負担等)
メインウッドデッキ	7.4m x 4.9m	37m <sup>2</sup>	¥40,000	¥1,480,000	構造体組上げは業者施工 塗装は住民施工 [10人 x 5時間]
メインウッドデッキの階段部	D500;蹴上166	13m <sup>2</sup>	¥40,000	¥520,000	構造体組上げは業者施工 塗装は住民施工 [10人 x 5時間]
スロープ	土留ブロック 床面：土間仕上	11.7m <sup>2</sup>	¥50,000	¥585,000	土留は業者施工 土間は住民施工 [5人 x 5時間]
落石防止ウォール	H:800~1200, W1000	8基	¥85,000	¥680,000	型枠建込~コンクリート 打設~脱型は業者施工 塗装は住民施工 [5人 x 5時間]
円形広場	インターロック	4.0m <sup>2</sup>	¥12,000	¥48,000	下地材敷込みは業者施工 ブロック材敷き並べは 住民施工 [3人 x 5時間]
回遊の小道	土間仕上げ (思い出品埋込みワーク ショップ)	21.6m <sup>2</sup>	¥12,000	¥259,200	端部型枠~メッシュ引込 は業者施工。コンクリート 打設時~思い出品埋込 住民施工 [10人x5時間]
アプローチ	再生枕木	14基	¥15,000	¥210,000	住民施工 [10人 x 5時間]
花壇	見切材及び花苗等	47.6m	¥2,500	¥119,000	地元緑化活動団体による ワークショップ
シンボルツリー	H:5.0, W:2.0, C:0.2程度	1本	¥90,000	¥90,000	住民施工 [5人 x 2時間]
ミニウッドデッキ	1.92~9.18m <sup>2</sup> (7箇所)	37.78m <sup>2</sup>	¥12,000	¥453,360	住民施工 [21人 x 5時間]
土工事		150m <sup>2</sup>	¥1,000	¥150,000	荒造成は業者施工 仕上げ均しは住民施工 [10人 x 5時間]
塗装工事	メイン・ミニウッドデ ッキ250m <sup>2</sup> (表面、裏面、 柱、脚部などすべて) 落石 防止ウォール25m <sup>2</sup> 合計 275m <sup>2</sup> 塗装道具一式	一式	¥187,500	¥187,500	住民施工
設計監理費		一式	¥200,000	¥200,000	
【小計】				¥4,982,060	
(消費税)				¥498,206	
合 計				¥5,480,266	

【注意】「住民」には、安全を配慮した上で瀬ヶ崎小学校の児童を含む

# 【一次コンテスト（7/21）通過以降の主な活動】

## 「あすのこ」みんなで検討！

7月

「あすのこかいぎ③」コンテストの振り返りと今後の活動について話し合う！

8月

二次コンテストの説明やその間の活動助成金の申請手続きなどの説明（まち普請事業事務局から）コーディネーターの決定！

「あすのこかいぎ④」コーディネーター、設計士と顔合わせ

8/28 まち普請事業施設見学会バスツアー！3つの拠点見学。

具体的な成功事例を見学！二次コンテストまでに、メンバーの意思疎通、方向性の共有、具体的な活動も大切だと実感

9月

「あすのこかいぎ⑤」二次コンテストに向けて具体的な話し合いと広場イメージ共有

「あすのこかいぎ⑥」広場のラフデザインなどの具体的な話し合い

森の安全性を確保しながらどんな広場を作る？

「あすのこかいぎ⑦」まち普請活動懇談会に向けて打合せ「ステップアップシート」作成

この広場で何ができるのか誰が集まるのか

9/22 市民まち普請活動懇談会（5名）参加ステップアップシート

森の安全性と長く活動するための維持管理の方法や運営の課題

10月

「あすのこかいぎ⑧」活動懇談会報告と具体的な広場のデザインイメージを固め、設計士に依頼



「あすのこかいぎ⑨」広場デザインの検討・共有

森の安全性

どんな活用をしていくか 広場の機能

▶瀬ヶ崎小ちゃんばくランド整備の歴史  
30周年記念誌  
当時の森の成り立ちについて  
脈々と受け継がれる思い

地盤工学の専門家のアドバイスをもとに、ウッドデッキ広場は森の真ん前ではなくより安全性の高い東側ターゲットエリアに！

脈々と受け継がれる思い

開校当時から、地域が祖父母世代、親世代、子ども世代と手入れしてきた！

「あすのこかいぎ⑩⑪」設計士による広場デザインのさらなる提案と検討。

10/31

まち普請審査員 広場を校内の森の前で現地視察  
あえて作るこの意味 広場だけで完結できるのか

「あすのこかいぎ⑫⑬」二次コンテスト申請書案検討。図面、パース、模型提案



近隣地域への説明（校長、代表、近隣対象地域町内会長、副代表）

「あすのこかいぎ⑭⑮」子どもも大人も集まって二次コンテスト申請書案、最終図面等最終検討に

子どもも大人も集まって「あすのこ広場」をDIY！予算も圧縮

二次コンテスト申請書一式提出予定（※切 11/28 17時厳守）

いろんな人が無理なく楽しく関われるしくみを

12/21 瀬ヶ崎小学校 創立70周年記念式典開催予定！

12月

二次コンテストに向けて準備審査員事前質問など

1/26 二次コンテスト！

## ワークショップやイベントで地域に発信！

7/28 関東学院大学建築・環境学部研究室主催の「アスレの森」のワークショップ開催「みんなで植物図鑑づくり」



8/30 瀬ヶ崎小学校運営協議会拡大版にて「アスレの森」とその広場のグループに分かれ地域と教職員が意見交換



10年後、20年後、30年後の活用や夢について考えた！

9/3 瀬ヶ崎小5年生のワークショップ「アスレの森前の広場で何作ろう」

どんな広場にしよう！子どもたちの視線からあすのこ広場考える！



9/14 関東学院大学建築・環境学部研究室主催の「アスレの森」のワークショップ開催「みんなで丸太の家具づくり」



10/12 関東学院大学建築・環境学部研究室主催の「アスレの森」のワークショップ開催



実際のロープなどを使ってスケールを把握。2×4材などを使ってベンチなどを製作！広場予定地にベンチを置くことで広場のイメージが深まった！



10/26 アスレの森の手入れ草刈り 地域・保護者、児童参加



みんなで汗を流すのって楽しい！



11/9 関東学院大学建築・環境学部研究室主催のみどりアップワークショップ「家具をつくろう」



11/10 六浦東地区の社明大会でアスレの森や自然の大切さなど紹介

11/30 関東学院大学建築・環境学部主催のみどりアップワークショップ開催予定！「樹木博士になろう！」

▼六浦東地区 社協広報誌「かかやき」11号（11/10発行）に掲載。社明大会地域で配付

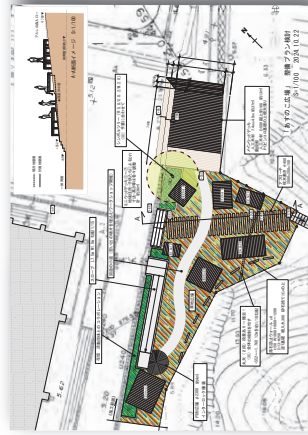


12/7 関東学院大学建築・環境学部主催のみどりアップワークショップ「フラワーポットづくり」開催予定！

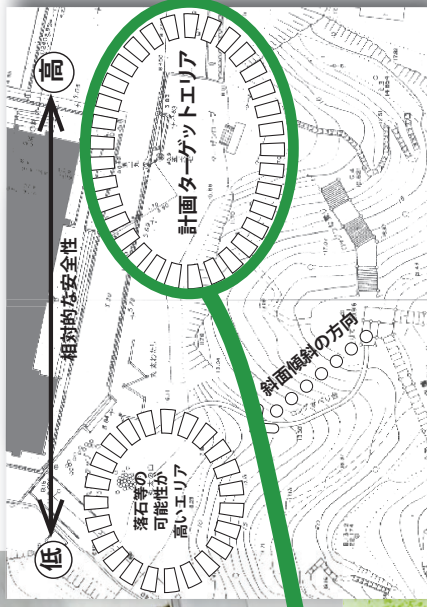


▲六浦東地区社明大会チラシ「子どもたちの未来のために私たちができること」





完成予想図



施工図面

# 「あすのこ広場」はこんなところ！

◆シンボルツリー  
4年生の国語の教科書にも出ていたプラタナス。アスレの森と広場、そして子どもたちや地域の人々を見守る！

◆落石防止ウォール  
万が一の落石の危険性に配慮し、遊び心も兼ね備えたわくわくするデザインのスロープを斜面側に設置。

◆回遊の小道  
森の風を感じながら草原のくねくね小道を散歩！

◆アプローチ  
飛び石状に並べられたアプローチは自然豊かな「アスレの森」の入り口に誘う！

◆みんなで作るミニウッドデッキ  
子どもも大人も森の緑を愛でながら休憩したり、本を読んだり、おしゃべりしたり。点在するミニデッキはそれぞれの快適な距離感で落ち着く居場所

◆スロープ  
誰もが利用できるために！草花を愛で回遊しながらウッドデッキへと繋がる

◆メインウッドデッキ  
急傾斜地の安全性を考慮しグラウンド側にメインデッキを設置。児童の授業や合唱、演劇などの発表、地域のヨガ・体操・盆踊りサークル、バンドの演奏、工作教室など、体験と発表の場。グラウンドでの試合観戦や行事観覧、休憩、見守りの場。キッズクラブのお弁当時間など、のんびり過ごせる広場！





2次コンテスト事前質問集

【提案名グループ名】 「アスレの森」を残す会「あすのこ」	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① ウッドデッキの土台や基礎はどのようになりますか。	基礎部分はコンクリート製のコンクリートピンコロと呼ばれる四角形の基礎石を使用予定
② ウッドデッキはどのような使い方をしますか。授業、地域の方たちの普段の利用などシーンを想定して教えてください。	○メインウッドデッキ 授業：グラウンドでの活動の休憩や応援観戦の場。合唱や劇などの発表の場 地域：ヨガや体操教室、ダンスなどのイベント開催や発表の場、グラウンドでの試合観戦や休憩場所として。のんびり座って森をながめながら過ごす場。 ○ミニウッドデッキ 授業：休み時間は友達とおしゃべりしたり、休憩したり、たのしく過ごす場として。読み聞かせや読書の時間として利用。総合学習等、様々な授業でのグループ学習の場として。 地域：ゆっくり森を眺めながら、休憩したり読書したり、おしゃべりする場として利用。
植松委員	
① 現地視察に伺った際、とても素晴らしい空間で、今のまま＝デッキではなく芝生、緑地帯のままで充分素敵だと感じられましたが、これをデッキにしようとする必要性を教えてください。	緑地帯は天気がいい時も湿気が多く、特に雨天後は、ぬかるみ状態になるため、活動をためらう場合が多いです。そこで緑地帯の一部に広いウッドデッキを設置し、広場の整備をする事で雨天後も「アスレの森」の前での活動が活発になり、天候にかかわらず快適に過ごすことができると考えます。

	<p>グラウンドや教室からも森のシンボルとして広がるウッドデッキは、わくわくする場として、アスレの森へ誘う重要な働きをしてくれます。また、回遊の小径やミニウッドデッキなどがあることは、子どもたちの遊びや観察場所としての機能を妨げることもありません。むしろある程度整備することで、緑地帯での活動の可能性が広がり、これまで以上に自然に親しむ契機となるのでは期待しています。</p>
② ウッドデッキは案外腐食が早く、特にこちらの土地のような、樹木や丘地からの湿度がもたらされるような場所では 10 年ほどで腐食が始まることがありますが、その場合の対策はどのように考えていらっしゃるでしょうか。	<p>基礎部分や柱の部分などは、樹脂などの人工木材を使うことで、湿気による腐食の課題にも対応。床下の風通しなどにも考慮し、長く使用できるかと思えます。天然木については、定期的な塗装整備（最低 2 年に 1 度）を考えています。</p>
③ 回遊の小径は、車椅子とその介助のスペースを十分にとり、傾斜などにも充分に配慮する必要がありますが、それだけの場所を確保出来そうでしょうか。	<p>設計段階でも傾斜は緩やかに計画しており、介助者にとって小径と草地の段差も少ないので問題ありません。スペースもとくに問題ありません。</p>
川原委員	
質問なし	
後藤委員	
① ミニウッドデッキの利用イメージを具体的に教えてください。	<p>ミニウッドデッキの想定している利用方法については朝比奈委員の質問②の回答内容と同じになります。</p>
杉崎委員	
① 施設やグループの活動以外で地域住民等が自由に森に入ることができる時間はありますか。	<p>地域住民の利用は、現時点では、基本的に土曜日・日曜日の学校開放時が対象となります。</p> <p>また、近隣の小学校や幼稚園、保育園等の利用に関しては引率の先生や保育士が対応してくれることを前提に平日も利用可能です。</p>
② ミニウッドデッキを整備するに至る経緯、また想定している利用方法を教え	<p>これまでのワークショップ開催で参加した子どもたちや保護者、地域住人から屋外</p>

<p>てください。</p>	<p>でおしゃべりしたり、のんびり過ごせる場所やぼーっとしたり、落ち着く場所がほしいという希望がありました。丸太椅子やベンチづくり等のワークショップを通して、落ち着くスペースや心地よい場所について体感。みんなで手作りのミニウッドデッキも造りたいとの声が上がりました。ミニウッドデッキの想定している利用方法については朝比奈委員の質問②の回答内容と同じになります。</p>
<p>鳥海委員</p>	
<p>① 現地視察させていただき、「アスレの森」はとても素敵な場所だと実感しました。自然の中で過ごすこと、自由に遊べる環境の大切さを知っている「あすのこ」さんが隣接する箇所にこれだけの造作物を必要とされる理由を教えてください。</p>	<p>「アスレの森」の素晴らしさや親しみについては、アウトドア好きな大人や子どもは充分感じていると思います。しかし虫や草木が苦手な子どもたちや保護者、自然に触れあうきっかけのない地域住民も多くいます。そういった子どもや地域住民もメインウッドデッキやミニデッキなどがあることで、そこに座り、木々や鳥の声を聴きながら居心地の良さを体感したり、回遊の小径での散策、花壇の季節の草花を楽しむことで、「アスレの森」の自然にもっと親しむきっかけになると考えています。</p>
<p>② 基本的に「アスレの森」と別物として、子どもたちの活動は森の下で完結することでしたが、造作物を作ることによって、大切にしている「アスレの森」の課外活動自体をどう変化させていきたいかを教えてください。</p>	<p>「アスレの森」は六浦東のランドマークであり、類い希な財産であると考えています。六浦東地区は瀬ヶ崎小学校で育ち、地域の担い手として定住している人が多い地域です。愛着ある小学校の中に皆が集えるウッドデッキなど、親しみやすい広場をつくることは、「アスレの森」の価値を再確認し、森への愛着を持つ人が増えると共に、地域の人的繋がりも育まれ、地域全体で森の保全や維持管理をしていく上でも重要な役割を果たします。</p> <p>小学校は防災拠点でもあり、ウッドデッキのある「あすのこ広場」を防災キャンプ、炊き出しなどにも利用でき、地域住民の防</p>

	<p>災にとって極めて有用です。</p> <p>「あすのこ広場」ができることで活動の内容など、質量ともに拡がり、自然から遠ざかりがちな大人、子どもにとって五感を使って自然を体験できる貴重な場になると確信しています。</p> <p>未来のまちを担う子どもたちの成長は、地域の発展や住民福祉にとっても大切な意味をもっていると考えます。</p>
<p>③ 小学生だけではなく、近隣幼稚園保育園を含めた子どもたちの活動、自然に親しめる環境をこれからも大切にするために一番必要だと思っている造作物はなんですか？</p>	<p>子どもから大人まで、地域の多世代が集まり、ゆっくり過ごせるウッドデッキです！また、森に繋がるちょっと遊び心のあるミニデッキが点在する広場も、森の散策が難しい小さな子どもたちにとって、森への関心を高めながら無理なく遊べる場になるのではないかと考えています。</p>
<p>肥後委員</p>	
<p>① 学校に近隣の方が気軽に訪れることに心配はありませんか？</p>	<p>平日、児童がいる時間帯は正門での解錠等、学校の管理下で行われ、出入りチェックも可能なので特に心配はしていません。土日の学校開放時は、グラウンド利用団体の管理下にあるので登録の利用団体と相談していきたいと思います。地域に開かれた学校としての伝統もあるので工夫し検討していきます。</p>
<p>松村委員</p>	
<p>① 児童が利用することはイメージが湧くのですが、地域の方々はどのように利用されると想定していますか？</p>	<p>○講師を招いてヨガ・体操教室や森のサウナ、ピザ・パン焼き講座、野鳥や草花などの自然観察会、コーヒー講座、野点、アクセサリー手作り講座の開催。災害救助犬や盲導犬教室などの企画など。</p> <p>○保健活動推進委員と協働し、フレイル予防体操教室、消防団と協働しての防災教室など多世代向けのイベントを企画。</p> <p>○大学と連携したワークショップも引き続き開催。みどりアップ活動ともコラボ。</p> <p>こうしたイベントで地域住民の交流や</p>

	<p>人材の更なる掘り起こしをしたい。</p> <p>○バザーやフリーマーケットの企画開催。</p> <p>○<u>花壇整備のボランティアと協働</u>して、広場の花壇整備をし、季節のテーマに沿って楽しい草花の広場にも！花を愛でに、地域の老人会や婦人会などが憩える広場にしてい予定です。</p> <p>○<u>町内会単位</u>での婦人会の集まりやイベントを気軽に開催。</p> <p>毎年小学校で実施されている<u>六浦東地区全体の防災訓練、芸能祭、社明大会</u>などを<u>広場を使った企画</u>としても検討中です。</p> <p>コロナ前には小学校で毎年開催していた六浦東地区の地域・子ども交流イベント「ふれあいまつり」（地域の青少年育成関係者やまちの先生などが中心に、ゲームや工作、着付け、手芸教室など実施）の再開も検討しています。</p> <p>土日にイベントなどがなくても、見守りスタッフのいる日は広場を開放。ウッドデッキに腰掛け、鳥の声や森の緑を眺め、ゆっくり過ごす癒やしの場として、それぞれが落ち着くデッキや空間で過ごせること。それが地域の大人も子どもにとっても最大の魅力ではないでしょうか。</p>
<p>② アスレの森の木を、整備に用いる計画はありますか？</p>	<p>すでに手入れの際に出た間伐材を使ってワークショップによる丸太ベンチの製作・設置やウッドチップを広場整備に利用しています。今後も同様の活動を続けるとともに、さらに地域に呼びかけ、こまめに森や広場の安全点検や整備に取り組みます。少人数でも、定期的に整備することで作業効率も高め、ウッドデッキや森の保全・整備においてもベストだと思います。</p>
<p>③ 整備後の維持管理にかかる費用は、どのように作り出す予定ですか？</p>	<p>○恒常的な<u>募金</u>の呼びかけ。</p> <p>○<u>イベント実施</u>の際、会費の一部を森や広場の整備費用として利用。</p>

○フリーマーケット、バザーを開催し、収益を活動運営と整備費用に充てることを考えています。